

平成22年2月

石田勝則 学位論文審査要旨

主 査 河 合 康 明
副主査 重 政 千 秋
同 久 留 一 郎

主論文

Appropriate use of nasal continuous positive airway pressure decreases elevated C-reactive protein in patients with obstructive sleep apnea

(適切な経鼻的持続陽圧呼吸療法は閉塞性睡眠時無呼吸患者のC-反応性蛋白を減少させる)

(著者：石田勝則、加藤雅彦、加藤洋介、柳原清孝、衣笠良治、小谷和彦、井川修、
久留一郎、重政千秋、Virend K. Somers)

平成21年 Chest 136巻 125頁～129頁

審 査 結 果 の 要 旨

本研究は閉塞性睡眠時無呼吸患者に対して行われる経鼻的持続陽圧呼吸（nCPAP）療法のアドヒアランスの良悪が、心血管発症の重要なイベントマーカーであるC-反応性蛋白（CRP）へ与える影響について検討したものである。その結果、一日あたり4時間以上使用できた日が週に5日以上であった適切使用群は、6ヶ月間のnCPAP治療後、明らかなCRPの減少を認めしたが、使用率が基準以下であった不適切使用群ではCRPの有意な減少はみられなかった。本論文の内容は、元来心血管疾患を高率に発症するといわれる閉塞性睡眠時無呼吸患者において、nCPAP治療の良好なアドヒアランスを保つことで炎症を改善し、心血管合併症を防ぎ得る可能性を示唆した臨床的意義に富んだものであり、明らかに学術水準を高めたものと認める。